

地方創生に資するランドデザイン策定に関する研究

熊本大学工学部 学生会員 ○段 里可子

熊本大学大学院 正会員 星野 裕司

熊本大学大学院 正会員 増山 晃太

1. はじめに

1.1 背景・目的

2014 年にまち・ひと・しごと創生法が施行され、同年にはまち・ひと・しごと創生総合戦略が閣議決定された。これに伴い、全国各市町村で地方版総合戦略が策定され、地方創生に基づくまちづくりが行われている。

一方で、近年、軽井沢に代表されるような、ランドデザイン（以下、GD）を用いた、まちづくりの形態も生まれてきている。

そこで、本研究では、地方創生に資する GD 策定のプロセスや考え方を整理することで、GD 策定がまちづくりの中でどのように機能するかを考察し、まちづくり手法の新たな可能性について明らかにすることを目的とする。

1.2 方法

現在、GD を策定している岡山県奈義町において、奈義町役場と地域再生推進法人である一般社団法人ナギカラ（以下、ナギカラ）に、ヒアリング調査を行う。それに加え、奈義町誌、奈義町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、総合戦略）、奈義町まちづくり総合計画（以下、総合計画）等、各種資料の内容も踏まえて考察をする。

2. 対象地について

2.1 奈義町の概要

奈義町は、岡山県の北東部に位置し、国定公園に指定されている北部の那岐山を介して鳥取県と接している。町の西側一帯には、日本原演習場の敷地が広がっており、町内各地に農業用の溜池が約 130 か所存在する。2002 年、住民投票により合併しないことを決定し、現在は、人口 6,000 人の町を維持することを目標にまちづくりを行っている。

2.2 グランドデザインとは

奈義町の GD は、総合戦略や総合計画を策定する中で、各計画の実施期間に捉われない 50 年、100 年先を見据えたまちづくりをするための方針が必要だ

という考えから取り入れられた。総合計画の中では、“タウンプライドを基に、現在の町民が実感できる、50 年後の奈義町の姿を描く「ランドデザイン」を創り上げ、見える化する”と記述されている。タウンプライドとは、町の文化や歴史、景観や生活環境などを踏まえ、今後変化していく時代の中にあっても、変わらぬ町民の心のよりどころ、誇りとなるものである。

2.3 奈義町ランドデザイン事業の概要

「みらいを、掘り起こせ」というコンセプトのもとに、自然、アート、教育、共生、第三の居場所、経済の 6 つを奈義町の生活の基本となる本当に必要なものとして掲げ、図 1 のような町全体のイメージと部分のイメージをそれぞれパースで表現している。町全体の構図としては、中心の拠点の周りをいくつかの小さな拠点が取り巻くというものになっている。中心部は、滞留時間の増加や消費活動の誘発、利便性の向上のため、回遊性生まれるような施設配置で、文化・商業エリア、子育て・教育エリア、新しい居住と暮らしのエリアの 3 つに分けられる。

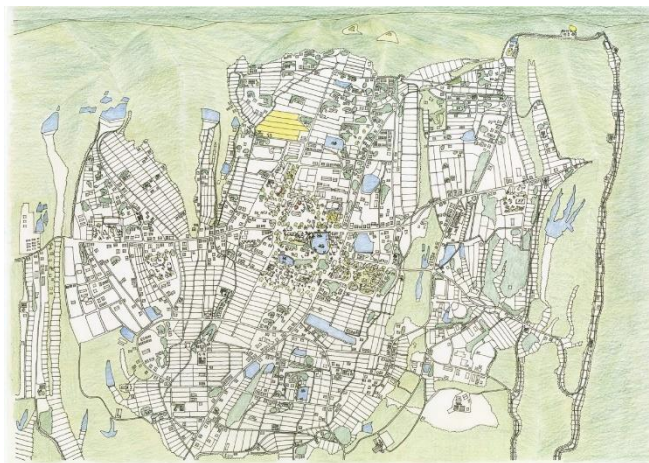


図 1 奈義町 GD 全体パース（案）

3. グランドデザインの位置づけ

3.1 グランドデザインの考え方

奈義町では、町が合併しないことを住民投票で決定していることから、住民自治と言われるような、町だけでなく、町民まで浸透するような町のビジョ

ンを共有し、町にいる人全体でまちづくりを進めていくことが重要だと考えられている。そのため、GDの基となっているタウンブライドは、ワークショップを通して、町民の意見を聞き、町民にとって変わらず大事なものをまとめることで構築していった。また、町の中心に位置する奈義町現代美術館の一角に、GD策定に向けて行われた地形調査や歴史調査の内容や1万分の1奈義町地形模型（熊本大学景観デザイン研究室製作）を展示することで、GDのプロセスを町民と共有できるようにしている。

（図2）



図2 展示されている奈義町の地形模型

3.2 まちづくり事業の全体像

まちづくりを進める上で、稼ぐ力で自立する、自然とアートの「生涯“総”活躍のまち」づくり事業において、地方創生加速化交付金と地方創生推進交付金が給付され、DMOがマーケティング&セールスを担う「小商いクラスター」構築事業において、地方創生推進交付金が給付されている。

4. まちづくり体制

4.1 奈義町役場の組織体制

2016年4月、町役場に新たにまちづくり戦略室という部署ができた。それ以前は、他の仕事と一緒に総務課でまちづくりが行われていたが、総合戦略策定を機に、きちんと分けて取り組もうという動きが出てきたのである。それと同時に、町役場内でも組織の改革が必要だという考えから、班長制度が生まれた。これは、1年限りの配役として、若い人でも課や係をまとめていける人を班長とするもので、それまで課長レベルで行われていた“まちづくり総合戦略会議”に加え、班長レベルで行う“まちづくり

総合戦略ワーキング”や班長会議も行われるようになった。これにより、若い世代の意見も聞けるようになるのと共に、まちづくりに関係している部署以外の人の意見も聞くことができるようになった。

4.2 地域再生推進法人

地域再生推進法人は、地域再生推進法人制度によって地方公共団体の補完的な立場で地域再生の推進に取り組む組織として指定された非営利組織である。奈義町では、ナギカラが地域再生推進法人としてまちづくりをサポートしている。もともとは、一般社団法人つながる地域づくり研究所（以下、つな研）が総合戦略や総合計画の策定を支援していたが、奈義町の地域再生推進法人として指定するためにナギカラとして新たに組織を立ち上げた。

4.3 外部機関との連携

GDは、熊本大学景観デザイン研究室の星野、増山に加え、土木設計事務所、建築設計事務所、ナギカラ（以下、GDチーム）が策定に取り組んでいる。町からの依頼でつな研が専門家を探していたところ、グッドデザイン賞を受賞した緑の区間について知り、星野に声をかけたことがきっかけである。外部の声を聞くことで、ずっと町の中にいる町民だけでは気づけないことにも気づくことができるというのが、町が外部の専門家を取り入れた理由である。GDチームと共に、町長をはじめとする町役場の職員も北海道東川町や山形県金山町等、他の町への視察を行っている。

5. まちづくりにおけるランドデザイン

GD及びまちづくり事業について、体系図として図化することでまとめていく。その上で、GDがまちづくりの中でどのように機能しているかを考察する。

【参考文献】

- 1) 奈義町：奈義町誌, 1980
- 2) 奈義町：奈義町まち・ひと・しごと創生総合戦略, 2015
- 3) 奈義町：奈義町まちづくり総合計画, 2016
- 4) 尾崎信：公共空間の戦略的・統合的デザインの実現に向けた体制と職能に関する考察, 景観・デザイン研究講演集 No.12, pp.41-46, 2016